文部省選定
優秀映画鑑賞会
推　薦

日本紹介映画コンクール
審査員特別賞受賞

伝統工芸の名匠

紬に生きる

——宗廣力三——

「宗廣力三・染織の心」

——大岡 信——
（詩人、東京芸術大学教授）

▲古い紬の縞帳をみる

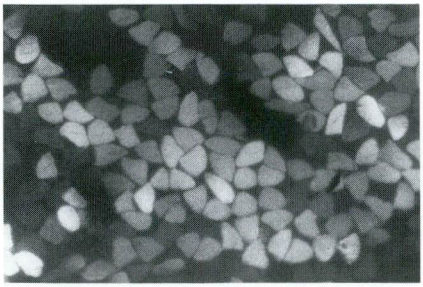
宗廣力三は紬縞織（つむぎしまおり）・絣織（かすりおり）に示した創造的な業績によって重要無形文化財保持者に認定された。彼が染め織り出した特色ある紬は、世に郡上紬と呼ばれる。郡上八幡がその誕生の地だったからである。しかし、郡上には各地と同様紬織の伝統はあったけれど、それはごくありふれた織物にすぎなかった。「郡上紬」と呼ばれるものは、宗廣力三と共に興ったものであって、氏がこの地に存在していたものを再興したわけではない。とびきり上等の伝統工芸であって、同時に現代工芸の最先端にあるもの、それが宗廣力三の郡上紬ということになる。

透明度があって堅牢であること。柔らかくて腰が強いこと。渋くて深みがあること。暖みがあること。創意に溢れた人柄の宗廣が織物について話す時、これらの形容語は欠かすことのできない用語である。宗廣にとって、これらは織物がそなえていなければならない大切な性質、特長である。けれどもまた、視点を変えて言うなら、これは織物を作る側の人間に対して真先に要求される大切な資格にほかならなかった。紬、絣織りは各地にある。だが、宗廣はこの織物を相手にして、この最も当り前の普段着の意匠に現代の趣を取り込み、千変万化の楽しいものにした。

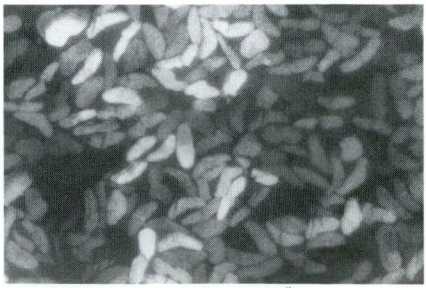
宗廣が織物を始めたのは終戦をきっかけとする。三十三才の時である。最初、宗廣は京都試験場長 浅井修吉に教えを乞い、インドのエリ蚕の飼育法、草木染の染色法を学ぶ。そして郡上の里でエリ蚕を飼育、糸を取り、糸を染め、織った。しかし、飼育が難しいのと産出する糸の量が少ないため数年で日本の春蚕に切りかえた。近年、宗廣は再びエリ蚕の風合と味を求め、図案を考え、糸を染め、エリ蚕の飼育に努めながら現代の紬、絣織りのあり方に真摯に追っている。

宗廣は持ち前の知的好奇心で織物を作るが、織物もまた宗廣力三を刻々と作りだしている。

● エリ蚕糸と家蚕糸の比較（顕微鏡拡大写真）



▲家蚕糸——国産の絹糸は、その断面が三角形をしているので光が乱反射し、絹本来の光沢としなやかさがでることがよくわかります。



▲エリ蚕糸——エリ蚕の糸はやや長めの楕（だ）円形をしているので、絹のもつ光沢とウールの風合や深味が加味された感触になることがわかります。

■解説

「30数年前にエリ蚕という蚕で紡いだ糸の風合いが忘れられません。あの糸でもう一度、紬を織りたいものです…。」宗廣力三氏は映画製作に当たってそんな夢を語ってくれた。エリ蚕とはインド・アッサム地方原産の野性の蚕で、その糸はさながら絹にウールを加えたような味わいがあるという。

宗廣氏が織りの世界に踏み込んだのは33才の時である。彼は青春時代、郡上の青年運動に参加、「凌霜塾」のリーダーとして開拓農業にたずさわっていた。そして戦後、故郷郡上の産業振興の為に郡上紬を始めたのである。その頃、彼は幾度かエリ蚕で糸を紡いでいた。30数年前の記憶を頼りにエリ蚕を飼育し、糸を紡ぎ、紬を織る。それは織りに賭けた宗廣氏の執念である。

昭和57年、宗廣氏は「紬縞織・絣織」の重要無形文化財保持者に認定された。彼の絣織の世界を見てみよう。

植物染料で染めた糸を用い織り上げた文様は、幾何学的な丸文や籠目文、更に心の字をイメージした心の字文など実に多彩である。しかもそれら１つ１つの文様は、極めて個性的でしっかりした美の世界を築き上げている。

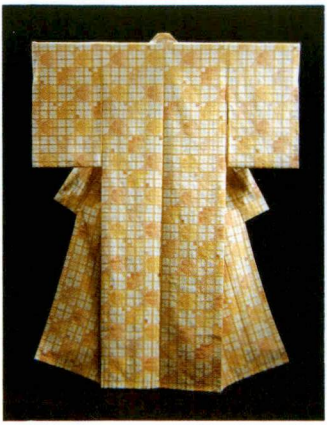
宗廣氏の絣織は、「どぼんこ染め」で糸を染める。「どぼんこ染め」とは、図案に従って幾度となく糸をくくり染めていく手法だ。工房の染め場で宗廣氏はひたすら糸を染める。気の遠くなるような長い染めの時間、だが、その長い時間を通して、はじめてあの独特の風合いを持ち、しかも用にかなった宗廣氏の織りの世界が開かれるのだ。

現在、宗廣氏は郡上の飛騨国際工芸学園で若者達を指導するかたわら、南足柄の自らの工房にも数名の研究員を住まわせ、後継者の育成に心血を注いでいる。

織りを通して人を育てる。それは宗廣氏の終生のテーマであるという。どうやら宗廣氏の胸の内には、あの青春時代の「凌霜」の想いが、いつも絶えることなく漂っているようだ。

●宗廣力三年譜

大正３年　岐阜県郡上八幡町に生まれる。
昭和13年　「凌霜塾」主事として塾生の指導と開拓農民の育成を行なう。
昭和20年　紬織を興す志を持つ。
昭和22年　インドよりエリ蚕を導入・飼育、天然染料の研究、絣の研究等を行なう。
昭和28年　郡上工芸研究所を開設、紬織物の研究生の育成にあたる。
昭和40年　日本伝統工芸展に初出品。
　　岐阜県芸術文化賞受賞。
昭和44年　日本工芸会正会員となる。
昭和52年　岐阜県重要無形文化財保持者となる。
昭和55年　神奈川県に南足柄工芸研究室を開設、後継者の育成にあたる。
昭和57年　重要無形文化財「紬縞織・絣織」保持者となる。
昭和59年　紫綬褒賞受賞。



「丸に花文」絣織着物

藍地「霜凌ぐ竹」文様絣着物

茜染エリ蚕紬やたら織着物

作 品 名：シリーズ〈伝統工芸の名匠〉

「紬に生きる」

——宗廣力三——

（35㎜/カラー/32分）

企画製作：財団法人ポーラ伝統文化振興財団

製作協力：株式会社 日経映像

製作スタッフ：製　作・小谷田亘
構　成・山添　哲
黒崎洋一
監　督・黒崎洋一
撮　影・髙畦幸一
撮影助手・大木大介
照　明・松橋仁之
編　集・井上正司
音　響・佐藤日出夫
音　楽・広瀬量平
ナレーター・加賀美幸子

協　　力：文化庁文化財保護部
飛驒国際工芸学園

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture
財団法人 ポーラ伝統文化振興財団

〒141-0031　東京都品川区西五反田2-2-10　ポーラ第2五反田ビル2階
TEL.03-3494-7653　FAX.03-3494-7597

P/D 3,000 94・10